

世界健康安全保障イニシアティブ (Global Health Security Initiative : GHSI)について

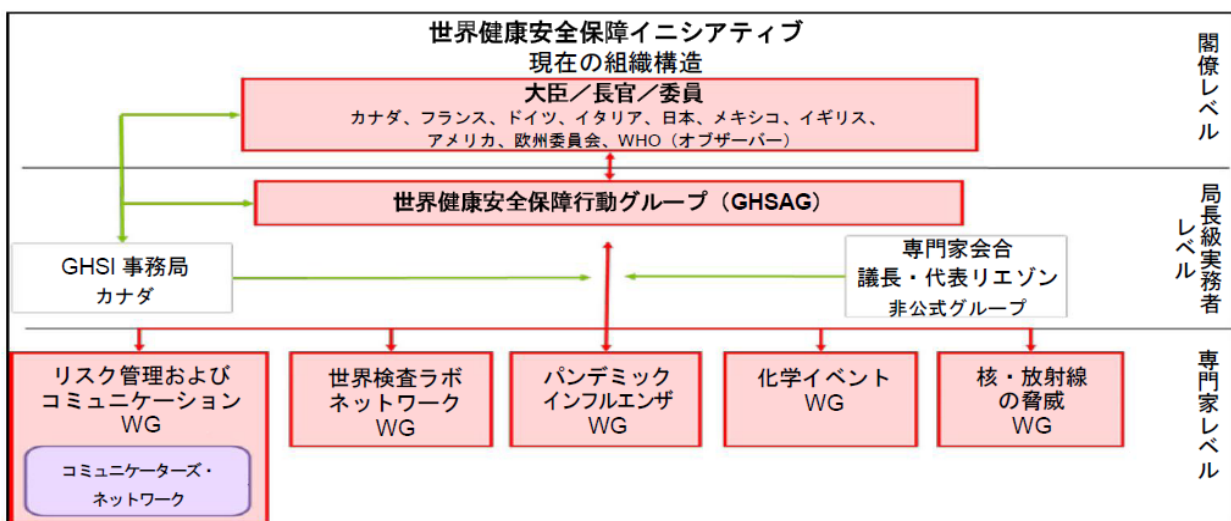
1. 経緯

2001 年（平成 13 年）9 月 11 日の米国における同時多発テロをうけ、米国・カナダ政府の呼びかけにより、世界的な健康危機管理の向上及びテロリズムに対する準備と対応に係る各国の連携等について話し合うことを目的に各国保健担当大臣会合として発足。

2. 構成

メンバーは G7（カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国）、メキシコ、欧州委員会（EC）であり、オブザーバーとして WHO も参加 している。

3. 構造と活動



【閣僚級会合】

各国の保健担当大臣が年 1 回会合を開き、時事的な政策問題についての対話を促進し、イニシアティブの方向性を定めている。

【世界健康安全保障行動グループ（GHSAG）】

各国の局長級実務者で構成される GHSAG は、大臣らの計画と目的を具体的な行動に移し、危機が発生した際に迅速なコミュニケーションのネットワークとして機能することを目的としている。GHSAG のメンバーは、地球規模の健康安全保障の問題について情報を交換し、GHSI ネットワークの政策の優先事項を協議し、技術レベルでの行動の進捗状況を確認し、閣僚級会合の準備を支援する。

【専門家会合（Working Group:WG）】

生物剤、化学剤、核・放射性物質によるテロ等の健康被害への対応について、専門分野毎に技術的な検討作業を行うための専門家グループ。

○ リスク管理及びコミュニケーション WG

議長は英国とカナダ。CBRN リスク管理の計画策定、脅威・リスク評価、緊急時のコミュ

ニケーション及び医学的対策等の分野での政策協調に責任を負う。このグループには、効果的なリスク・危機コミュニケーション戦略を策定して危機管理に活用するために設けられたコミュニケーターズ・ネットワーク（牽引は米国とドイツ）が含まれる。

○ 世界検査ラボネットワーク

議長はカナダとメキシコ。診断の質の保証、診断手法・技術の柔軟性と適応性の向上や、検体の輸送の問題に取り組んでいる。

○ パンデミック・インフルエンザ WG

議長は米国と英国。各国の準備計画を含め、パンデミック対策計画策定についての情報共有に責任を負っている。2009 年に新型インフルエンザ（H1N1）が流行した際、このグループは疫学調査、サーベイランス、医学的対策、公衆衛生対策等の分野において適時の情報交換の調整を行った。

○ 化学イベント WG

議長は英国と日本。有害な工業用化学物質のリスクの優先順位付け、人間の除染の分野における研究の必要性和ベストプラクティスの特定のほか、早期警報・報告など複数の有害事象に関するその他のプロジェクトを行っている。

○ 核・放射線の脅威 WG

議長はフランスとドイツ。放射線防護や核の安全に関する他の機関と協力しながら、緊急事態への備えを行い、対策や施設のマッピングなどの分野におけるプロジェクトを実施するとともに、緊急時の非公式コミュニケーション・ネットワークとして機能する。

4. 閣僚級会合開催状況及び参加者

第 1 回（2001 年 11 月 7 日：オタワ）	近藤事務次官他
第 2 回（2002 年 3 月 14 日：ロンドン）	田村政務官他
第 3 回（2002 年 12 月 6 日：メキシコシティ）	大塚厚生労働審議官他
第 4 回（2003 年 11 月 7 日：ベルリン）	大塚厚生労働次官他
第 5 回（2004 年 12 月 10 日：パリ）	西副大臣他
第 6 回（2005 年 11 月 18 日：ローマ）	西川政務官他
第 7 回（2006 年 12 月 7 日：東京）	柳澤大臣他
第 8 回（2007 年 11 月 2 日：ワシントン D.C.）	松浪政務官他
第 9 回（2008 年 12 月 5 日：ブリュッセル）	小野田欧州代表部特命大使他
新型インフルエンザ対策のための臨時閣僚級会合（2009 年 9 月 10 日：ブリュッセル）	
	麦谷審議官他
第 10 回（2009 年 12 月 4 日：ロンドン）	麦谷審議官他
第 11 回（2010 年 12 月 2－3 日：メキシコシティ）	岡本政務官他
第 12 回（2011 年 12 月 9 日：パリ）	麦谷審議官他
第 13 回（2012 年 12 月 7 日：ベルリン）	麦谷審議官他
第 14 回（2013 年 12 月 13 日：ローマ）	牛尾審議官他
第 15 回（2014 年 12 月 11 日：東京）	塩崎大臣他